

大正十一年
五月號



第二卷

第十 八 號

内 容

口 隕石一二箇(寫眞)

京都大學天文臺所藏の

隕石(圖入).....九

京都大學助手 古川 龍城

金星に生物無し.....二三

京都大學助教 山本 一清

私の太陽觀測について(第二).....三六

上諏訪 三澤 勝衛

星の日週運動の寫眞

について(圖入).....二六

京都 西堀榮三郎

新刊「お星様からきいた話」(古川).....二〇

紹介「お星様からきいた話」(古川).....二〇

新彗星の軌道判明.....二三

變光星の國際的協同觀測よ

り得たる一新例.....二三

故一戸博士發見の變光星.....二三

黃道光實見話(備中平松誠一).....二三

通信(江崎悌三氏より).....二三

同好會報.....二四

特別附錄 天文語彙 (一三)

五 月 の 天 象

太陽 六日午後五時、立夏。二十二日午前

六時。金牛宮より双子座に入る。小

満節。四日午後十時、上半月(蟹座の東)

月 十一日午後三時、満月(天秤の西)

十九日午前三時、下半月

(水瓶座、東南)

水 水瓶座(東南)

星 二十七日上午三時、新月

水 太陽に近くて、夕空の星であるが、月初は

好都合。二十日頃金星に追

着くため西天に偉觀を呈

す。

二十四日最大離隔太陽の

東へ二十二度半。

金星 毎夕西天の大明星。光は頁三

等。二十日頃、水星が近づ

いて来る。

火星 八日に留、それから西へ逆行

出現時間も日没後に近くなつて来る

月末の視直徑十九秒、距離七千三百

萬キロ。

木星 夕空時に南中の好都合。以前から

逆行の續きで、月末には乙女座の星

に接近する。

土星 乙女座の星の北東に近く、ゆる

く逆行、殆んど停止の體。光は

一等、木星と並立。

天王星 水瓶座の星の西三度の邊を順行中

夜の一時過に東から出現。

海王星 蟹座の星の西北二度餘りのところ

を、ゆるく順行。但し、太陽

が近づいて来るので月末には觀測

不能。

流星群 ハレ彗星の後を追つてゐるもの

が、五日前後に水瓶座をあたりか

ら四方に飛ぶ。

象 天 の 月 六

太陽 六日午後九時半、芒種節。二十二日午後二時半、

双子座より巨蟹座に入る、夏至。

月 三日午前二時、上半月(獅子座の西南)

十日午前一時、満月(蛇追ひ座の南)

十七日午後九時、下半月(双鱼座の南)

二十五日、午後一時、新月

水星 月初はまた夕空に見えてゐるが、急に逆行し始め、十八時午後六時、下合。其の後は曉の星。

金星 夕空の西天に觀望甚好し。

火星 いく／＼十七年ぶりで近接し來る。

十日に衝。運動は逆行、大急ぎで一文字にア

ンタレス星へ。十九日は地球に最近距

離で、彼我の間六千八百方キロ。

木星 六日は留、それから順行に復す。依然、乙女座

の雄として巨光を放つ。

土星 三日は留、其の後は順行を始めるけれど、尙速度

はのろい。

天王星 十九日は留だが、其の前後も殆んど動かないで、水

瓶座の星の北一度のところにある。觀測には

だん／＼よくなる。

海王星 蟹座東端を順行中、但し太陽に近く、觀測は駄目。

流星群 昨年の經驗によれば、月末は大熊座の星の附近か

ら例のウインネケ流星群が飛ぶかも

しれぬ。但し光が微弱なため普通人の眼では駄目

だらう。

Contents of THE HEAVENS No. 18 Edited by T. Araki.

Meteorites of the Kyoto University Observatory (Frontispiece).....
R. Furukawa, The Meteorites of the Kyoto University Observatory
*I. Yamamoto*, No Life on Venus.....*K. Misawa*, On my Sun-
 Spot Observations.....*Y. Nishibori*, On photographing the Diurnal
 Motions of Stars.....*Mr. Yodokawa's* "Stories from Stars" (Re-
 views).....Orbit of the new Comet 1922a.....A New Example of
 International Cooperations of Variable Star Observers.....Variables
 discovered by the late Prof. N. Ichinohe.....Observations of
 Zodiacal Light (*Sei-ichi Hiramatsu*).....Letters.....Notes.....
 Reports,
 APPENDIX: T. Yebi, Astronomical Lexicon (13).

Published by the Society of Astronomical Friends,
 Kyoto University Observatory.

告 廣

錢貳拾金稅部

Simon Newcomb's

錢五拾參圓貳價

ELEMENTS OF ASTRONOMY

本書は初學者のための天文書として英米の社會に最も廣く讀まれてゐます。平易なる英文を以つて天文學の全般にわたり簡明なる記載と親切なる説明を試みてゐます。山本助教は同志社女學校で之れを教科書に用ゐてゐられます。内容の配列は

- 一、地球と天體との關係
- 二、地球の公轉
- 三、時間について
- 四、天體の觀察と測定
- 五、重力
- 六、地球
- 七、太陽
- 八、月と日月蝕
- 九、曆
- 十、太陽系の概觀
- 一、内遊星
- 二、外遊星
- 三、彗星と流星
- 四、星座
- 五、恒星と星雲
- 六、天文學小史

山本助教曰く

「ニウカム氏のエレメンツは天文學書として近代の傑作である。四六版、僅か二百餘頁の小冊子に、よくも之れだけ趣味と實益とを兼ねた(しかも數學ぬきの)好い書物が出來たものだ。今日の天文を愛する人は必ず此れを讀んで其の最初の智識を得なければならぬ」云々

京都大學天文臺内(振替大阪五六七六五)

取次……………天文同好會
發賣……………丸善株式會社京都支店

LATEST K.U.O. BULLETINS PUBLISHED

No. 17 (1. April, 1922.)

List of Naked Eye Variables. (肉眼變光星表)

X Leonis. (獅子座X星)

Delta Ursae Majoris. (大熊座S星)

Dr Sh. Kawasaki. (川崎理學士)

Occultation of Lambda Geminorum. (双子座X星の掩蔽)

No. 18 (6. April, 1922.)

Monthly Report of Sun-Spot Observations. (太陽黑點觀測)

Published by the Society of Astronomical Friends, Kyoto University Observatory.

殘部あり、前月發行のもの
同好會員に限り毎號金五錢で分配す

京都大學天文臺内
天文同好會發行

同好會出版

山本一清助教授著
星座の親しみ

(第三版、大増補)

四六版百頁、美麗なる寫眞及木版數十個入
價金壹圓、郵税金八錢。

右、いよいよ發賣
改訂大増補、元の三倍の分量となる。

發賣所

東京市京橋區銀座尾張町

警 醒 社

廣

告

古賀和吉氏編

簡易恒星圖

一部(一枚)金拾錢

日本で見える四等星以上の星を全部網羅し、山本助教授の構圖によつて古賀氏が盡きしもの、大小星の配列極めて明瞭且美麗である。京都大學天文臺にて數百部買上げらる。

山本助教授著

アインシの相對原理

菊版二十頁(圖入)
郵税金貳錢

これは、さきに助教授が天界誌上に連載されたものの別刷である。今秋アインシダイナミクス教授來朝のことが決定したため、一般社會人七の相對原理研究熱勁與著しものがある。山本助教授の記述が頗る簡明に論の要點を捕へ、更に「餘論」として原理の哲學的意義に言及したことは本編の特色である。今般實費で提供する十部以上郵税無料。

京都大學天文臺内天文同好會發行

日刊 滋賀日報

一部金參錢、一ヶ月金五拾錢
郵税共一ヶ月金六拾五錢、三ヶ月金壹圓九拾錢、六ヶ月金參圓六拾五錢、一ヶ年金七圓拾錢

今般、本社々長藤井善助氏の管理せる藤井天文臺へ、京大の山本助教授毎週出張、火星其他の觀測をせられることになりました。本紙は二月以後毎日、同助教授の執筆になる「天文通信」を連載し、最新科學の普及に貢献せんとす、天文通信の内容は一般にわたる天文學の講話と、火星觀測の實際的報告を主とします。

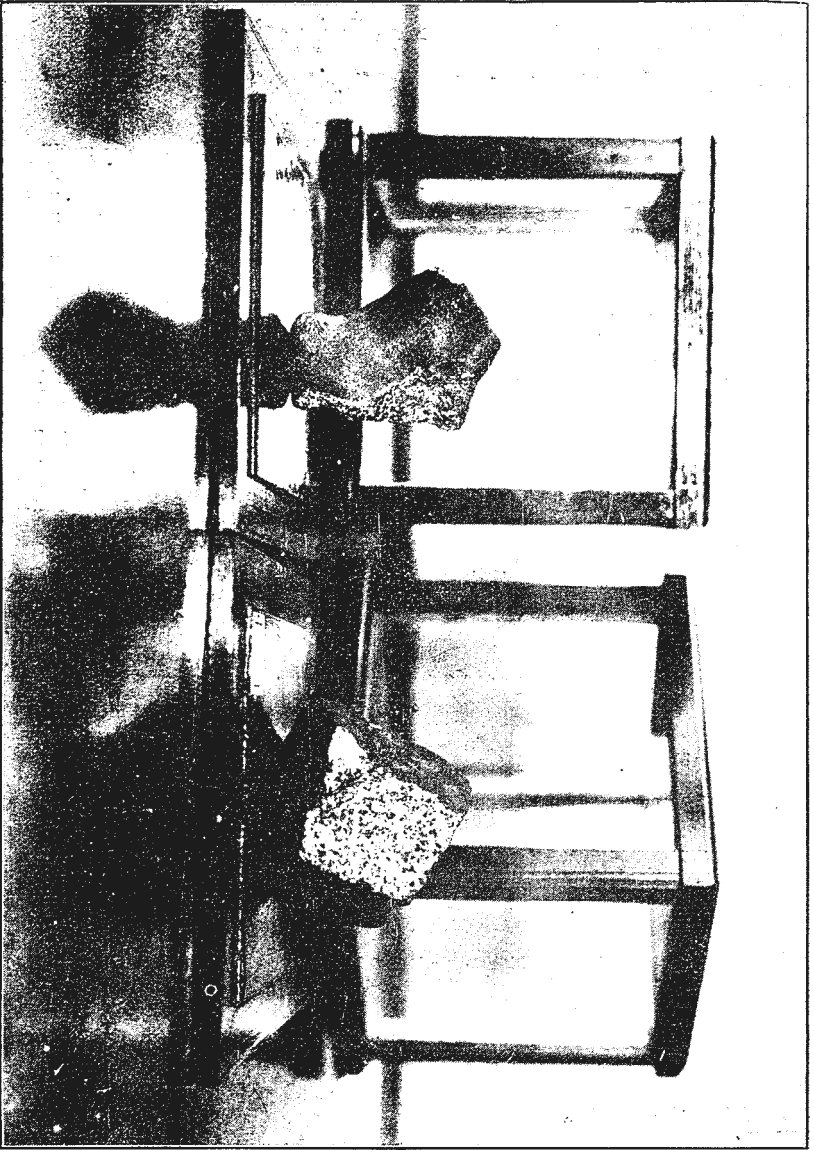
滋賀日報 天文通信 概要

- (一) 天文とは何か
- (二) 一人前の天文臺
- (三) 藤井天文臺
- (四) 木星の觀測
- (五) 土星の觀測
- (六) 海王星の觀測
- (七) 火星の觀測
- (八) 月の觀測
- (九) 彗星の觀測
- (十) 流星
- (十一) 天王星來る
- (十二) 恒星の世界
- (十三) 變光星
- (十四) 二重星三重星
- (十五) 星雲と星團
- (十六) 天の河
- (十七) 冬天の美觀
- (十八) 黃道光
- (十九) 小游星
- (二十) 一年の回顧

發行所

滋賀縣大津市榎屋町

合資 會社 滋賀日報社



(藏所 聖文天學大園帝都京)

石

隕

編輯室より

米國プリンス頓大學天文臺は設備の點に於いて、大したものを持つてはゐないけれども、さきのヤング教授といひ、今のラツセル教授といひ、實に米國として得難き逸才を持つてゐるのは、他の何物にもまさる同大學の誇り言はればならぬ。ヤングが今は故人であるけれど、其の生存中は米國の新天文臺を開拓して、僅に歐洲の諸才と對抗、今日の米國天文學の重きをなす所以を來した功勞者であることは、今更言ふまでもないところである。今のラツセル教授は、今が正に働き盛りの年輩で、やはりハイカラな方面の天文學に絶えず新見地を抱きつゝある成績は實に眼覺ましいものがある。歐亂の始まる頃、ラツセル氏は、かの有名ななる巨星倭星の説を出して、天體進化論に新しい一轉機を與へたことは、今日の天文學の些しでも理解ある者は誰でも知るところである。最近氏が發表した學説として、本誌に山本助教が紹介してゐる通り、天體雰圍氣としての遊離酸素の意義を解き、之れを以つて天體に生物の有無を判別する基本を發見したことなどは、其の着想に於いて、誠に敬服

に値するところである。天體に於ける生物の問題は、もはや單なる空想家の手を離れて、天文學者によつて非常に具體的に論を進めらるることになつて來た。吾々は實に面白い時代に生れ合せたものである。●古川氏の隕石の記事は、氏の秘藏の材料をこゝに、天界のために提供されたものである。大なる興味と感謝さを持つて讀んで貰ひたい。●三澤、西堀兩氏の記事は一般同好者の勵まされるも多大である。と信ずる。學問といふものが、吾人の日常と決して根本的にかげ離れたものではない。忍耐と勉強とあれば、誰でも學界に貢獻することが出来るのである。大阪の檜原氏も亦其の一例である。

廣告

技術員數名採用 但中學卒業程度以上ノコト
志望者ハ六月末日迄ニ履歷書提出ヲ要ス尤モ詮衡ノ都合上可成本人ノ直接出頭ヲ便宜トス

東京麻布飯倉三丁目

東京天文臺

天文同好會

- 本部 京都帝國大學天文臺
 同志社支部 京都市同志社大學 飯義壽
 京都小教員支部 京都市富有小學校 内山新
 洛南支部 京都府伏見町京町大黒 吉田源次郎
 中野支部 京都市錦小路油小路東宮池宮代藏
 西陣支部 京都市七本松五辻下ル
 三高支部 京都市第三高等學校 河村篤之助
 大阪支部 大阪市西區京町堀一丁目 西堀榮三郎
 神戸支部 神戸市榮町五ノ六八 渡邊 定助
 甲南支部 兵庫縣明石市女子師範學校 小泉郁
 岡山支部 兵庫縣石崎市高等女學校 木村孝造
 名古屋支部 名古屋市東區東芳野町元 濱野眞
 上野支部 長野縣上田市高等女學校 中澤登
 長野支部 長野縣下高井郡瑞穂小學校 宮川周治
 高水支部 長野縣下高井郡瑞穂小學校 上條清人
 諏訪支部 長野縣上諏訪中學校 三澤勝衛
 廣島支部 廣島市研屋町五一 熊野徳一
 九州支部 福岡縣大牟田市龜甲町 古賀和吉
 大正十一年四月廿四日印刷 (定價二十五錢)
 大正十一年四月廿五日發行 (郵稅金五圓)
- 編輯兼發行者 天文同好會
 京都帝國大學天文臺內
 振替貯金 大阪五七六五番
 天界 右代表者 大阪市西區京町堀通一ノ一六
 第十 八號 印刷所 工業之日本社印刷部
 丸 善株株式會社
 波 福岡、仙臺、京都、大阪
 岩 東京、神田、裏神保町
 警 東京、京橋、銀座、尾張町

星圖無しに星を見る者は燈なくして暗夜を行くが如し

星圖は天文の鍵、宇宙旅行の獨案内

天文同好會の
大阪支部幹事
古賀和吉氏編

古賀恒星圖

定價金壹圓五十錢 郵税金八錢

京都大學天文臺

天文同好會發行

世界の何所からでも見ゆる星を全部網羅し、尙外に數百の星雲と星團、雜誌を含む

東京、大阪、京都
仙臺、福岡、横浜
丸善株式會社 發賣

古賀恒星圖

